

あたりまえの大切さ

北海道 北村小学校

5年 馬狩 楓

「あたりまえ～、あたりまえ～、あたりまえ体操～」

私と妹が、ひと昔前にはやっていた歌とダンスを楽しんでいたとき、私は「あたりまえってなんだろう」と疑問に思い、父に、「あたりまえって何？」と聞いてみました。

すると父は、

「自分のする最低限のことだよ。」

と教えてくれました。さらに続けて父は、

「あたりまえのことをしっかり自分でこなしながらほかの人のことも考えられるといいね。」

とも言いました。

それを聞いた私は、その場では軽くなずき、「教えてくれてありがとう。」と言いながらも、父の言ったことをぼんやりとしか理解できていませんでした。

それから数日後、母がコロナウイルスのワクチンをうった副反応で、体の調子が悪くなってしまった日のできごとです。

私は、「何かできることはないかな？」と考えながらも、何をしてよいのかとまどってしまいました。同時に、いつも母は家族のために、毎日の生活をあたりまえにこなしながら、さらにあたりまえの「プラスワン」をしていたことに気づき、母の家族への優しさをあらためて感じました。

自分が母のために今できることは何かをもう一度よく考えたあと、温かいお茶をわかし、母に持っていきました。母はとてもうれしそうな顔をして、

「ありがとう。」

と言って、おいしそうにお茶を飲んでくれました。

なにげない自分の行動から、数日前に父の言ったことを私は理解しました。

これまであたりまえについてしっかり考えたことはなかったけれど、あたりまえと「あたりまえのプラスワン」は、人への気づかいや思いやりともなり、これから毎日の生活を過ごしていく中でとても大切なことだと実感しました。

私は、『『小さな親切』作文コンクール』を通して、「あたりまえのプラスワン」は、「思いやり」という心のワクチンだと学びました。本当のワクチンは、接種するのに専用の知識やその知識を持った人が必要だけれど、心のワクチンには、相手を思いやる気持ちさえあれば誰にでも接種したり、してもらったりできる魔法のワクチンだと思いました。

最後に、私はあと約半年で小学校の最高学年です。これからは、あたりまえと「あたりまえのプラスワン」を学んだことを活かして、高学年らしい行動をしていきたいと思います。